

平成29年度

分科会施策の管理シート

分科会名	次世代創造分科会	会長	谷 秀樹
------	----------	----	------

重点項目	次世代を担う人口量の確保	数値目標	【達成時期】平成31年(国勢調査ベースのものは平成32年) 【目標値】①出生数257人、②有配偶率52.1%、合計特殊出生率1.65	分科会事務局	女性こども課
------	--------------	------	---	--------	--------

期	初(前年度末まで)		期 中(~9月)		期 末(~2月)…進捗・評価は見込で可		次年度へ	
	【施策名・概要】	選定した理由	分科会事務局	分科会の意見	分科会事務局	分科会の評価		
【実行する内容】	どのような必要性に基づくのか等	目指す成果	施策の進捗状況	見直し、課題、助言等の内容	実績及び成果に係る自己評価	達成度・成果について	課題、進捗管理継続の要否等	
1	次世代の親づくり事業 中学2年生全員を対象に各中学校に出向き、啓発講演会を実施する。内容としては、中学生に社会の中の自分の位置を自覚させ、将来大人になるとはどのように変化していくのか理解を進める。	政策指標実現のためには少子高齢化の傾向を是正し、出生数を確保する必要がある。次世代を担う中学生に将来自立して家庭をもつことの意義、すばらしさを啓発し、結婚について社会の風潮に流されない子どもを育成する。	講演会を終えて、アンケート調査を行い、「将来自分が家庭を持つことがイメージできた」生徒の割合が70%に達する事	市内全中学校(2中学校及び2義務教育学校)での実施は確定しており、現在1義務教育学校での実施日を学校にて検討中である。 府中市立第一中学校 12/1実施予定 府中市立府中中学園 12/4実施予定 府中市立上下中学校 12/7実施予定	○全校実施が2年目になるので、昨年講演を聞いた3年生(9年生)にも意識アンケートを取り、経年変化を調査してはどうか。 ○府中中央ライオンズクラブも中学生向け講演会を実施していると聞くが保護者も対象に加え合同開催など連携はとれないか。→現状の授業カリキュラムで大規模な講演会を追加することは困難	府中市立第一中学校 12/4実施 府中市立府中中学園 12/4実施 府中市立上下中学校 12/7実施 府中市立府中明郷学園 2/2実施 ○講演会後のアンケート結果将来家庭を持つことをイメージできた生徒割合は3校で70%超 ○3年生へのアンケートでは、のきなみ結婚に対する肯定的割合は減少している。	○意識の定着度を測るのであれば、3年生の数値を見たほうが良い。 ○できれば3年生にもう1回してみてもどうか。 ○こどもは親の背中を見て育つ。やはり親子で講演を聞き、家庭で話しあってこそ定着していくのではないかと。	○
2	婚活支援者育成等事業 結婚支援団体が実施する婚活イベントに対する補助金交付を行う。1イベントにつき5万円までとし、1団体2回まで対象とする。	若者の結婚をサポートする団体を発掘・育成し、結婚しやすい社会づくりを目指す。結婚相談業務や婚活イベントの開催など、若者の結婚を支援する「おせっかいさん」を育成する。	結婚支援団体が主催する婚活イベント数4件	1団体より補助金についての問い合わせがあり、申請の意思を確認している。	○昨年度補助した婚活パーティーの参加者の傾向はどうか。→どのイベントも特に女性の参加者集めに苦慮されている。 ○参加者の立場で考えたとき、「婚活パーティー」には気軽に何度も参加しにくい。むしろ、「お見合い」システムの方が高い成功率を見込めるのではないかと。	申請済1件 申請予定1件 ○3月実施予定のイベントでは、男女共に年齢制限を設け実施予定。女性の申込みもほぼ定員に達しており工夫を凝らした取組を実施。 ○お見合い及び結婚相談業務に関する取り組みについては個人情報扱う点等から難しい面があり、課題が多い。	○昨年度活用された団体は今年度申請があったのか。→昨年2回開催された団体が諸事情で実施されなかった。 ○イベント実施に関して市ほどの程度関与しているのか。→企画から相談を受けながら準備を進めている。ただし、市は主導せず団体の自主性を重視。 ○実施団体が増えるような工夫を期待する。	△
3	女性の活躍推進支援事業 市内企業を対象に「イクボス」セミナーを開催する。昨年度、商工会議所等に協力してもらい開催したが、参加企業が少なく効果が上がらなかったことから、経営者団体の主催する会合とタイアップする形を検討する。	女性が暮らしやすい社会をつくり、人口の流出を抑え、産業の活性化を図るため、市内企業を対象に「働き方改革」に関するセミナーを開催する。	参加企業50社	府中法人会の研修と合同で11月14日に実施予定である。法人会としても積極的に研修に取り組みたいと意欲を示している。 今回、府中法人会の管内ということで、福山市や神石高原町の会員も対象とすることや、各市町、商工団体とも連携をとる予定である。	○昨年のセミナーの反省を踏まえて、今年度は工夫が感じられる。更に、いろいろな団体を巻き込んで多くの企業・経営者に参加してもらおう工夫してもらいたい。	予定どおり、府中法人会との共同開催により11月14日に働き方改革・女性活躍推進に関するセミナーを実施した。参加企業数は昨年と比べて約2倍となり、参加者の増加を図る事ができた。 参加企業数:32社40人	○女性活躍といえば就労数を上げる事に偏りがちで、家庭で頑張っている女性には肩身が狭く感じている方もいる。 ○難しい問題だが、企業啓発の一方で、女性自身の意識向上をはかる事も必要。相乗効果でみんなが働きやすい地域にしていければ良い。	○
4	子育て訪問サポート事業 子育てに対して不安や孤立感を抱える等、様々な原因で特に養育支援が必要となっている家庭に対して、保健師、保育士などがその居宅を訪問し、養育に関する指導、助言等を行う。	児童虐待が増加傾向にある現状、そして全国的に児童虐待による子どもの死亡ケースの大半が0歳児であることから、産前産後を中心とした保護者への養育支援が効果的であると考えられるため。	事業利用件数20件	利用件数:2件(1件は新規、1件は継続) 想定より少ない件数で推移している。例として、市としては養育支援が必要と判断していても、本人からの同意が得られないケースなどがあるため、今後こういった例をどう拾っていくかが課題である。	○サービス利用者は2件とのことだが、市として要支援と判断できるケースはどのくらいか。→新生児への各戸訪問時点でミニカンファレンスが必要と見込むケースはおおよそ30人であるがその内養育支援を要する方を最大20人と見込んでいる。 ○産前期の妊婦への関わり方が、その後の信頼関係構築に大きく影響すると思われるので、重点的に取り組んでみてはどうか。	利用件数:2件 産前から関わることで産後直後からの支援ができた。 妊娠からの支援ができるように母子保健部門と連携して行いたい。	○折角の制度なのに利用に繋がらないのは大変惜しい。 ○面識あまりない人に子育ての悩みを相談するのは敷居が高いのでは。 ○例えば保育所に保健師が定期的に通って保護者と顔なじみになっておけないだろうか。 ○ネウボラ構築に向けて、このあたりの自然な繋がりができる事に期待する。	△
5	ウッズスタート事業 10か月児健診を受ける赤ちゃんに、木のおもちゃ「ありがとうつみき」と「本(子育てに木を取り入れるヒントが満載)」を素敵なトートバッグに詰めた「すくすく木育バッグ」をプレゼントする。	子どもたちの五感に働きかけ、感性豊かな心の発達を促すことを目的とした平成25年度からの子育てに木を取り入れる取組をさらに発展させるよう平成28年3月に行った「ウッズスタート宣言」を踏まえた取組を実現するため。	木のおもちゃにふれる機会を提供することで、子どもたちの五感に働きかけ、感性豊かな心の発達を促す。成果の検証は、アンケート等による子育て支援事業へのニーズ調査を実施して行う。	配布数 4月 21個 5月 19個 6月 22個 7月 26個 H29年度 配布数:88個 アンケート:未定	○アンケートはまだ実施していないとの事だったが、是非利用者の感想を聞いてみたい。	配布数(H29.4~H30.1) 199個1歳6か月検診時にアンケート実施。(H29.11月より、別紙) 今後の商品開発を含めた木育推進施策に反映させる。	○引き続き、適正な配布・木育の普及に努められたい。	○

- (注意事項)
- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
 - ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
 - ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行なうこと。評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
 - ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項	
------	--